
鈍感な男

茄子野郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鈍感な男

【Nコード】

N46520

【作者名】

茄子野郎

【あらすじ】

人間は恐ろしく鈍感である。

そうはありたくないと思っていた男が我慢できないほどの腹痛のあとに取った行動とは

ああ、また今日も会社に行かなければならない。

テレビでは最近起こった殺人事件を頻繁にやっている。生まれたばかりの子供が

殺された事件だ。

なんとも可哀相だ。生まれたばかりで殺されるなんて。

本当にそう思った。

だが人間というものは鈍感な生き物だ。

そのときはそう思ってもテレビから離ればそんなことは忘れてしまふ。

嫌なニュースを見て私はひとつ、ふたつ、せきをした。そういえば喉の調子が悪い。そりゃそうだ。

先週まで38度の猛暑日の連続、今日は20度を切っている。

夏にはクーラーでガンガンに部屋を冷やし、アイスクャンディーを食べながら

ああはやく冬になればいいのにと嘆き

冬にはこたつで温まりみかんをほおぼりながらああ寒い、早く夏になれとわがママを言う。

ひどく鈍感な生き物なのだ人間という生き物は。

おっともうこんな時間だ。電車で遅れる。私は家を出た。

ちょうど途中の駅まで電車がすぎたところだった。猛烈な腹の痛さが襲ってきた。

もうこの世のものとは思えないほどの痛みだった。痛すぎる。

駄目だ、この電車は特急だからあと20分は止まらない。やばい、これはもたない。

となりのやつらがえらく幸せそうに見えた。

ふざけるな。何で俺ばかりこんな目に。
だんだん脂汗が出てきた。

考えれば便所に行きたくなったら行きたい時に行って大をする。こんな当たり前のことが

とてつもない幸せだったのだ。なんて私は鈍感な男だったんだ：

これからは当たり前のことに幸せをかみ締めながら生きていきますから、

だから、どうか神様：

結局なんとか、トイレには間に合った。

危なかった…。

私は最大限に体を伸ばして深呼吸をした。

当たり前のことに感謝しなきゃなあ。

健康な体、綺麗な空気、そしてこの素晴らしい惑星、地球。

大好きなタバコを2本いつもより余計に味わって吸った。

ああ：上手い　さていくか。

私はひとつ、ふたつ、変な咳をして吸い終わったタバコを道端にポイ捨てして会社へ向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4652o/>

鈍感な男

2011年1月20日03時43分発行